

命 助かる 早期検診

戸田・熊谷でピンクリボンウォーク

早期検診・早期治療で乳がん撲滅を訴える「ピンクリボンウォーク」が30日、戸田市と熊谷市で開催され、参加者らは「乳がん検診で助かる命があることを知ってほしい」と呼び掛けた。

(岸鉄夫、丹羽良平)

「ピンクリボンウォーク」N戸田2016(戸田市主催、戸田中央医科グループなど協力)は、戸田市役所を起点に国道17号など約2・5キロで開催され、ピンクのセーターの神保国男市長を先頭に市民約2370人が参加した。

今年で10回目。第1回の300人から大幅に増加した。同市の乳がん検診の受診率は10年前に5%だったが、今は10倍の約53%に伸びた。神保市長は「ウォークの大きな成果が出た」と言う。

沿道では川口市の吉田麻莉さん(20)ら戸田中央看護専門学校(20)の学生たちが、手製のプラカードを掲げ「検診で命をつなげよう」と呼び掛けた。戸田中央総合病院のロビーでは中村隆俊戸田中央医科グループ会長らが歓迎した。

ゴールの市役所中庭のステージでは、乳がんと闘う女性たちが結成した「乳がんサバ

乳がん撲滅 学生ら訴え

イバー」6人がフラダンス。代表の御船美絵さん(37)と、共同代表でチーム結成提案者の国立がん研究センター乳癌・腫瘍内科の北野敦子医師(37)は「がんになった人に寄り添い支える社会づくりを」と訴えた。

参加した毛呂山町出身のタレント、ダンカンさん(57)は最愛の妻初美さんを2014年6月に乳がんで失った。ダンカンさんは「(妻は)僕の

体の半分を作った。どうしようもなく悲しい。仕事はバリバリやっているけど、生きる喜びは半分もない。僕と同じ人を一人でも減らしたい」と語った。

熊谷市の啓発ウォークには、地元の「NPO法人くまがやピンクリボンの会」(栗原和江代表理事)のメンバーや市民ら233人が参加し、中心市街地で乳がん検診の重要性を訴えた。

市内のアルスコンピュータ専門学校や坂戸市の女子栄養大学の学生も啓発ウォークに



沿道で看護学校生たちが「命をつなぐ早期検診」を呼び掛けた。30日、戸田市内

乳がん検診率向上を呼び掛ける参加者ら。30日午後、熊谷市内